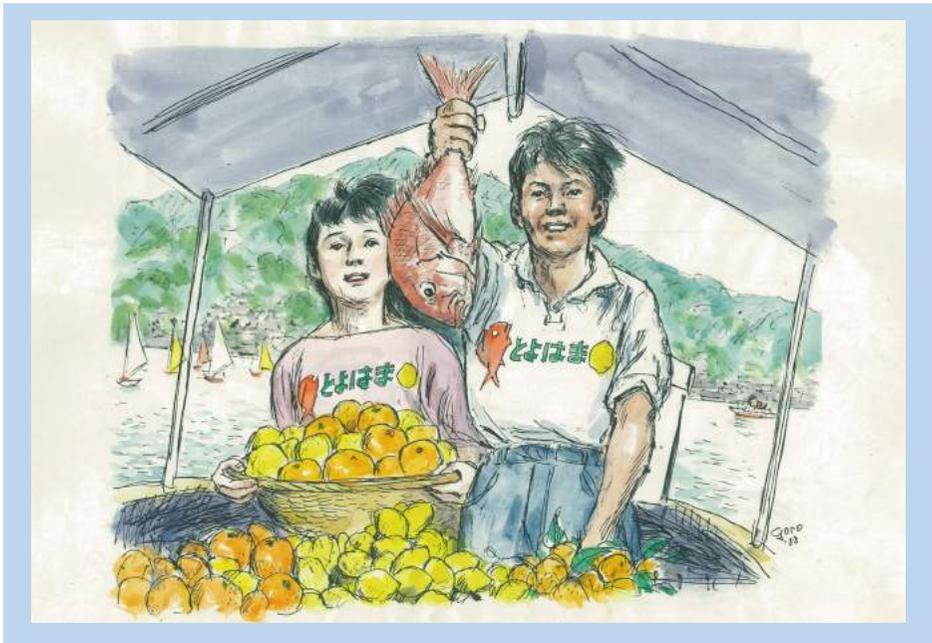


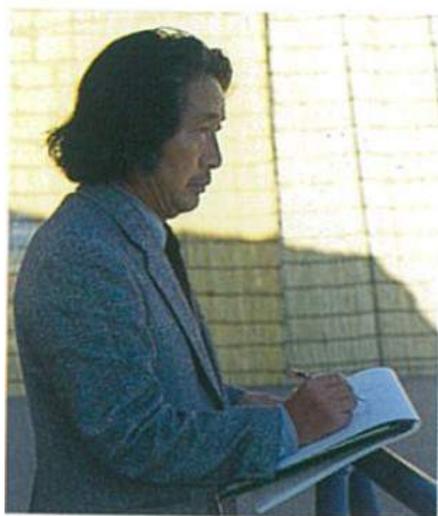
# 四国五郎が描いた ふるさと・豊浜



時は昭和から平成に移る頃、画家であり詩人でもある  
四国五郎さんが、豊浜を訪れ描いた数々のスケッチ。  
30年の時を超え、ここによみがえります。

豊浜町まちづくり協議会

## 四国五郎さんは…

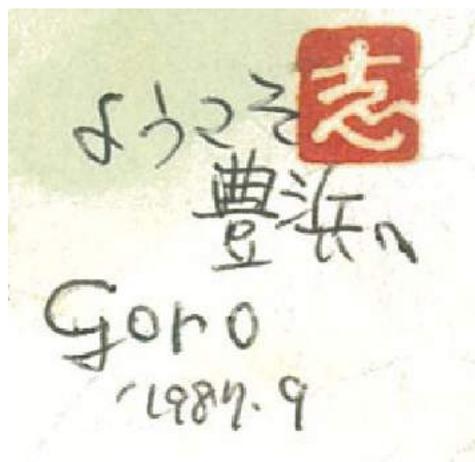


画家 四国五郎

大正13(1924)年旧賀茂郡大和町生まれ。少年時代から絵が好きで、豊浜町出身の伊藤春三先生らに絵を学ぶ。軍隊で3年間シベリア抑留を経験、戦後復員して広島市役所に就職する傍ら、日本美術会及び美術家平和会議の会員となる。広島平和美術展の事務局長も務めた。

また、詩人会議会員として詩も発表。「広島百橋」、絵本「おこり地蔵」「ひろしまの子」など、平和を願った多くの作品を残した。

平成26(2014)年、89歳没



「ようこそ豊浜へ」のサイン

## 描かれた約30年前の豊浜。今と比べて見よう

旧豊浜町出身の師に学んだ四国五郎さんは、昭和末から平成始めにかけて豊浜の様々な場所で景色や人々の営みをスケッチし、その一部は豊浜町広報誌「とよはま」の表紙を飾りました。また、四国さんは昭和63(1988)年に策定された「豊浜町基本構想」のアドバイザーでもあり、同年第1回目の「絵とグルメの祭典」に関わられました。そして、自らの作品を町に寄贈されたのでした。

令和を迎えた今、この絵画をあらためてご紹介するとともに、現在の様子もご覧ください。時の流れとともに変わったものと、変わらずにあるもの。身近な風景の中に、あらたな喜びを見つけていただければ幸いです。



表紙の「みかん・レモンを抱えた若い男女(1988)」と、「大浜沖海洋牧場」の原画も含まれ、当時策定中だった「豊浜町基本構想」に、四国五郎さんも深く関わっておられたことがわかります。

また、基本構想で描かれた昭和63(1988)年当時の未来予想図も、四国さんのペンと筆によるものです。



とよはまの玄関図



斎島ペンション村構想図

## なつかしい豊浜(文・四国五郎)

四国さんは、昭和62(1987)年10月から平成4(1992)年4月まで町広報誌の表紙絵を担当されました。その冒頭で語られた四国さんの言葉を紹介します。

不思議な御縁で豊浜町の絵を描かせていただくことになりました。

豊島を訪れたのは、このたびで3度目です。5年前に中国新聞社の社会事業団の慰問団の一人として来訪、豊浜学寮でかわいい子どもさんの似顔絵を描きました。最初に訪れたのは55年前で、私はまだ7歳でした。絵の好きな子どもだったので、豊島出身の伊藤先生につれてきていただき、いろいろ写生をしたのです。生まれて初めての体験で、島々も、海も、魚も、街並みも、人々も鮮烈に子ども心に印象づけられました。

63歳になった今、写生していると現在の豊浜風景の中に半世紀以上も昔の思い出が突然よみがえります。涙ぐむようななつかしさです。

豊浜には、わたしたちが失った貴重なものが、いたるところにあります。その貴重なものがいっそう豊かなる形で発展するように願いながら、写生させていただいています。(広報「とよはま」昭和62(1987)年10月)



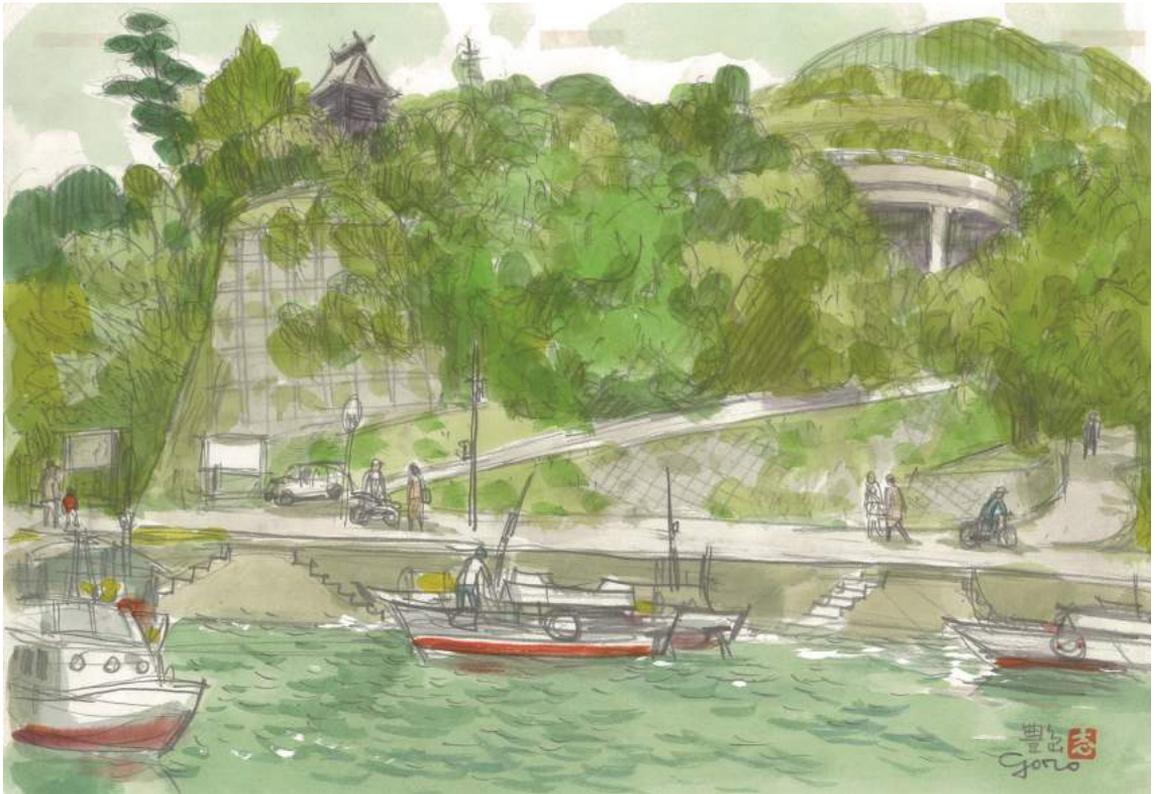
同時期の「フェリー到着」のスケッチは、呉市仁方町と蒲刈を結ぶ航路が描かれています。

# 目次

内 容	頁
巻頭辞	- 1
目 次	- 3
1. 豊島	- 4
2. 絵を描く子どもたちのいる浜	- 5
3. 室原神社	- 6
4. 室原神社参道	- 7
5. 良鎮寺山門から小野浦を	- 8
6. 島の朝豊島良鎮寺	- 9
7. みかんの花咲く丘	- 10
8. みかんの収穫	- 11
9. 港をみおろす墓群	- 12
10. 共同井戸	- 13
11. 伊藤商店前の湾内風景	- 14
12. 新春恵比須神社	- 15
13. 朝市	- 16
14. 活魚をあげる	- 17
15. 広島・今治高速艇乗船風景	- 18
16. ようこそ豊浜へ	- 19
17. 豊島小学校	- 20

18. 豊島小学校	- 21
19. フェリー基地	- 22
20. 中学生島内一周マラソン風景	- 23
21. 写生する人のいる丘	- 24
22. 豊島内浦	- 25
23. 雄鷗(ゆうこん)の滝	- 26
24. 豊浜ドック風景	- 27
25. 中埜梅雨	- 28
26. 長福寺から豊島をのぞむ	- 29
27. 大浜字立花大岐神社	- 30
28. 県下第2位の大岐神社の棕の木	- 31
29. 立花から豊島を	- 32
30. 鴨瀬	- 33
31. 二窓島	- 34
32. 斎小学校海水浴風景	- 35
33. いつき島春色	- 36
34. いつき島から	- 37
35. 斎島	- 38
36. 斎島風景	- 39
37. 斎島風景	- 40

# 1. 豊島 (小野浦 1990.7)



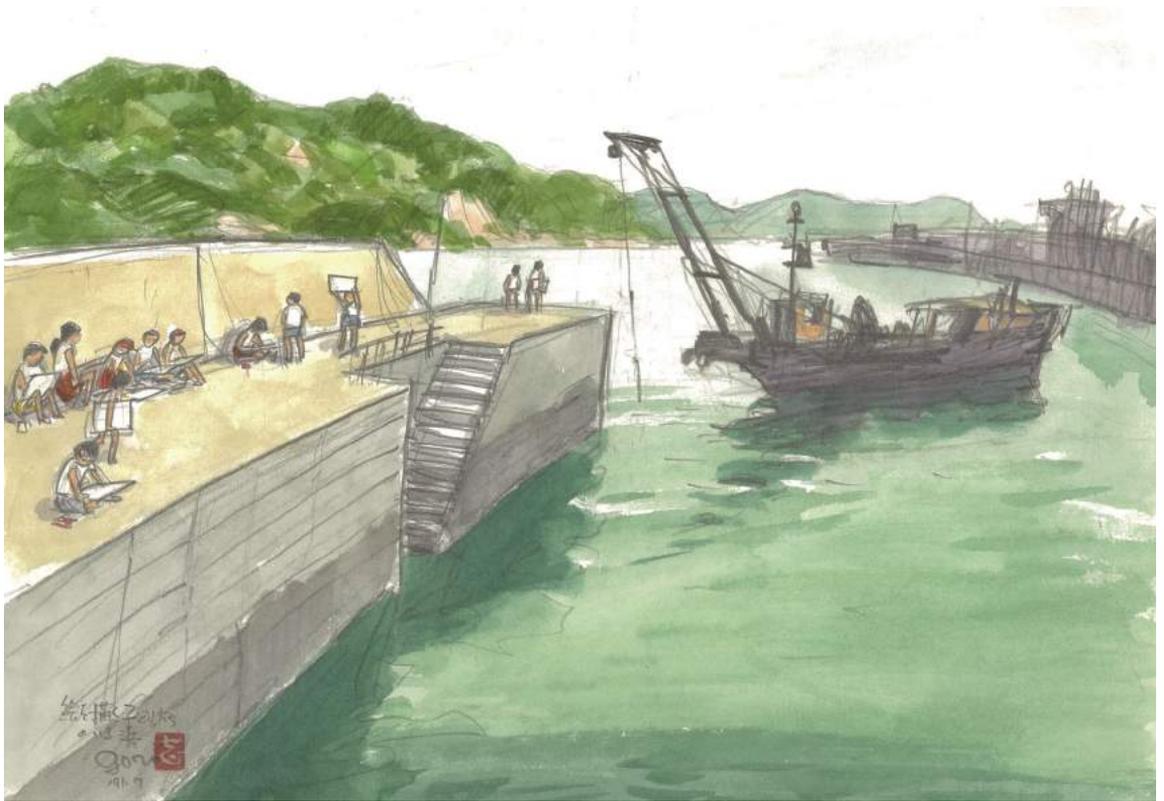
室原神社やむろきはら橋(ぐるぐる橋)を港から描いた構図。当時は社叢(神社の杜)のすぐ下まで海岸線が迫っていました。

現在、杜の木々は社殿を覆い隠すまでに大きく育ち、旧県道前は埋め立てられました。



新たに生まれた土地で県道が拡幅され、呉市豊浜市民センター（旧豊浜町役場）、公園などの公共施設や港湾施設が整備され、豊浜の拠点・憩いと交流の場になっています。

## 2.絵を描く子どもたちのいる浜 (小野浦 1991.7)



市民センター前の岸壁で絵を描く子どもたちです。護岸工事の作業船と、珍しそうに覗き込む2人の子どもの姿があり、当時の様子を伝えています。

その後、描かれた絵の先に向かって護岸工事がすすみ、絵と写真



とでは、岸壁の長さの違いが確認できます。

### 3.室原神社 (小野浦 1990.12)

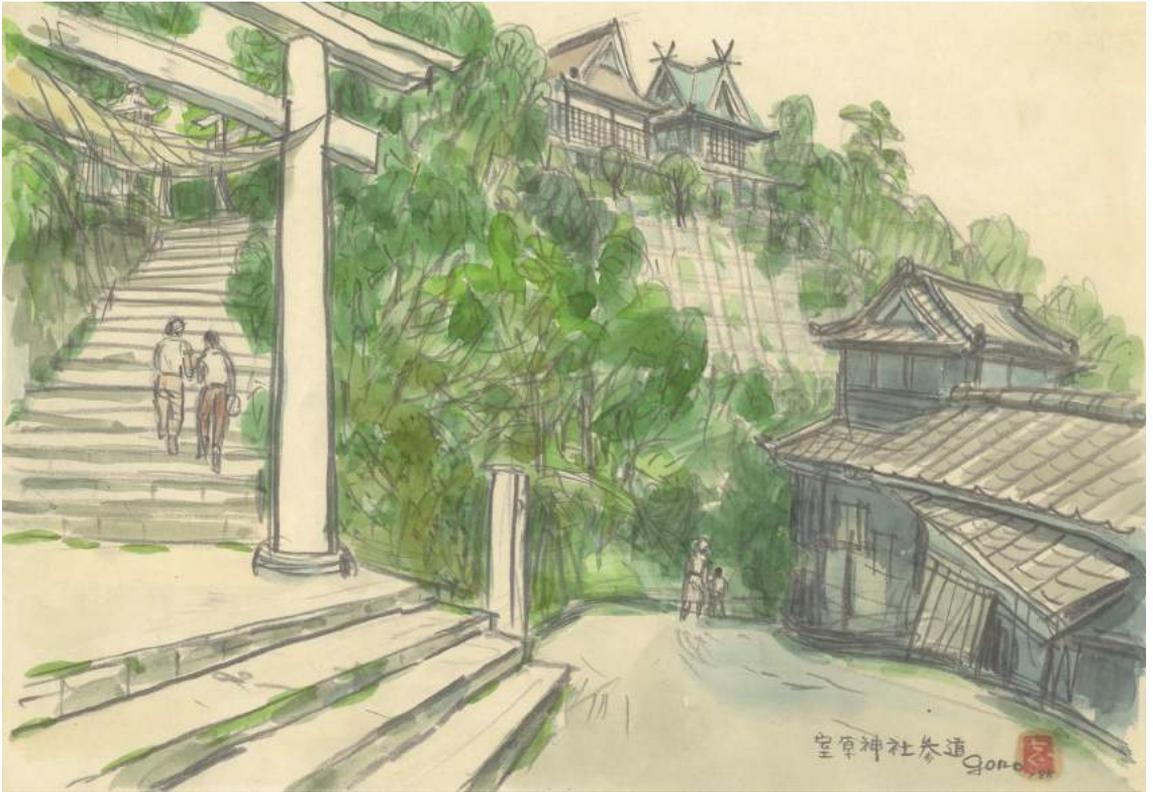


室原神社は豊島の氏神で、かつては室木原八幡宮と呼ばれていました。社叢は熱帯性のホルトノキなどで形成され、「豊浜のホルトノキ群叢」は昭和12（1937）年に広島県の天然記念物に指定されました。



例大祭は神輿や押船なども出る豊浜最大の秋祭りで、新年には弓射祭も行われます。時も流れを止め、昔と変わらないたたずまいの中に、お宮さまは鎮座しています。

## 4. 室原神社参道 (小野浦 1988.7)



室原神社が立つ小山は、古くから神聖な場所として瀬戸内特有の植生が保存されてきました。

また神社の斜面には昭和6（1931）年国の天然記念に指定された「アビ渡来群游海面」が「鳥獣保護特



別保護指定区域」である，という表示が掲げられています。参道の広い道は鳥居の下で細道となって良鎮寺へ続いており，豊浜の歴史を語る道です。

## 5. 良鎮寺山門から小野浦を (小野浦 1988.2)



広島県安芸地方では「安芸門徒」と呼ばれる浄土真宗の信者が多く、豊浜町民の多くは島外にある寺の檀家となっていました。

小野浦の金明山良鎮寺は、独立した寺を持ちたいとの島民の要望



から、岡山県成羽町から大正12（1923）年頃寺号を移して創建され、昭和5（1930）年現地に移ってきました。豊浜大橋や整備された港など、見える風景は若干変わりましたが、かつてのたたずまいを今に伝えています。

## 6.島の朝豊島良鎮寺 (小野浦 1989)

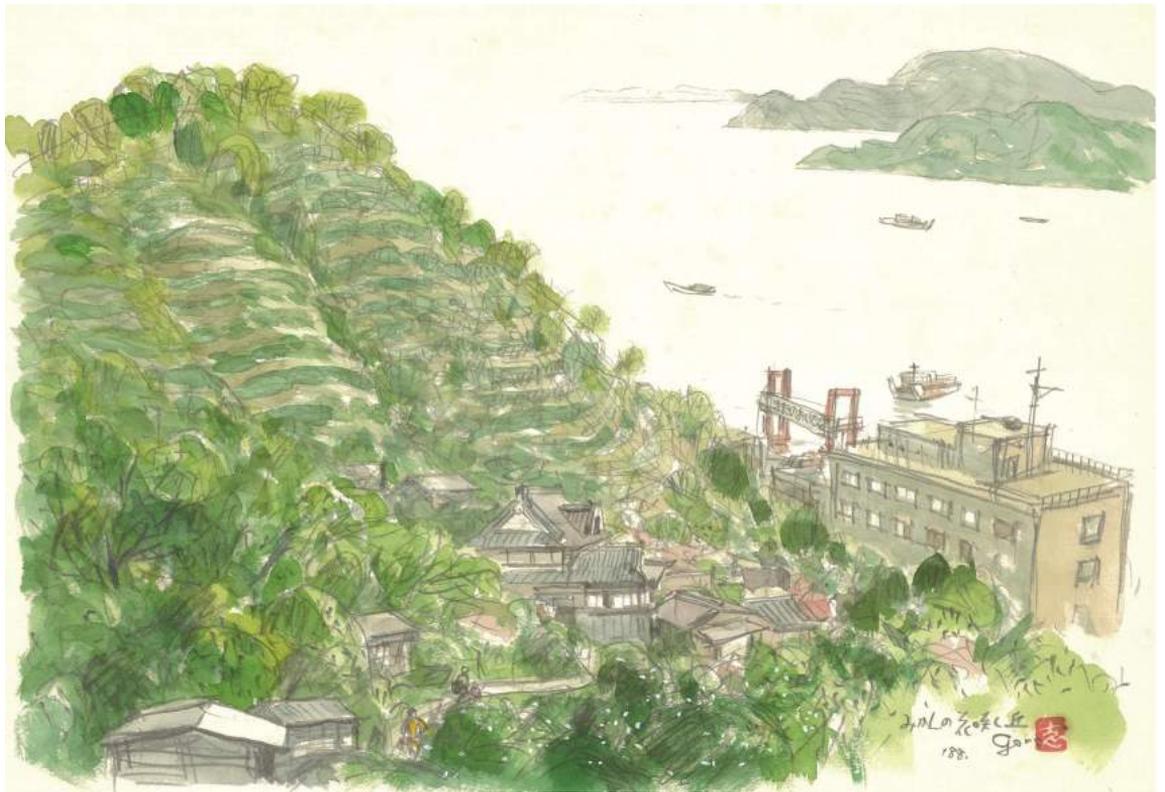


豊臣秀吉の時代，芸予諸島に浄土真宗が伝わったと言われていす。当時今治の常高寺開祖了空は，大浜村の立花に庵を構え，熱心に布教活動を行い多くの人々が門徒になりました。



その伝統は連綿と受け継がれ，島外の寺の檀家だった人たちは「島に寺を！」と要望し，良鎮寺などが創建されました。東方に向き朝日を浴びるお寺の鐘で，一日が始まります。

## 7. みかんの花咲く丘 (小野浦 1988.5)



むろきはら橋を登り詰め山崎方面に行くと、この景色に出会えます。よく手入れされたみかんの段々畑は、当時とほとんど同じ姿です。

しかし、絵に描かれた栈橋の赤いアーチ横の建物は旧豊浜町役場

ですが、県道拡幅により移転し、現在その姿はありません。



## 8. みかんの収穫 (小野浦 1988.12)



こがね  
大崎下島が「黄金の島」と呼ばれたように、みかん栽培の盛んな安芸灘の島々は、収穫最盛期になるとみかん色に染まります。急斜面の段々畑での収穫作業は人手をかけての重労働でした。



この果樹園の一部は荒地になっていますが、広域農道脇にある大河原川の砂防堰堤付近と思われます。

## 9. 港をみおろす墓群 (小野浦 1988.8)



むろきはら橋を登り、室原神社とは反対方向に進むと、丘の斜面一帯が墓地になっています。ここは、映画「男はつらいよ第27作 浪花の恋の寅次郎」で渥美清さんと松阪慶子さんが出会った場所。絵が描かれる約7年前に公開された作品の舞台です。近くには豊浜随一の桜名所もあり、寅さんのように、一日中海を眺めていたいなあと思わせる場所です。



## 10. 共同井戸 (小野浦 1989)



暮らしに欠かせない水、島では多年にわたり井戸に頼ってきました。町内のあちこちに共同井戸を掘り、ご近所さんたちが利用してきました。

この状況を改善するために簡易水道施設

が作られ、昭和40年台後半には広島県により太田川の水が供給されるようになりました。それでも「井戸端会議」は健在で、井戸は今でも大切に守り継がれています。



## 11. 伊藤商店前の湾内風景 (小野浦 1988.4)



伊藤商店は小野浦の漁港の真ん中にあり、食料品、酒類や雑貨などを扱う島のスーパーマーケットです。県道を隔て港に架かる赤い橋の周囲に漁船が集結し、賑わいの中心でした。



豊浜大橋が架かり、県道が拡幅され、漁港整備が行われましたが、今でも昔の風景を十分にたどることができます。

## 12. 新春恵比須神社 (小野浦 1988.1)



七福神のえべっさんは漁業と商売繁盛の神様。小野浦にある神社は「胡神社」ですが「恵比須」「恵比寿」「蛭子」などとも表記されます。賑わう正月風景が描かれた一枚。



民俗調査が昭和12(1937)年に行わ

れ、豊浜町史には『海岸に小さなエビス神社があり、旧暦の正月と盆に漁民から米と酒、魚類のお供えがある』と書かれ、現在は1月1日に実施されています。また、境内にはアビを祀った7つの社もあります。

### 13. 朝市 (小野浦 1989.1.24)



平成元（1989）年1月24日の朝市。野菜などが豊富に並び、多くの人が集まっています。食生活の改善や特産品開発のための女性グループが結成され、第一回目朝市は昭和61（1986）年に実施されました（豊浜町史）。現在は



は、伊藤商店やAコープ豊島店、花まるなどの店舗で食料品が取り扱われています。また、漁協青年部が実施する水産まつりなどのイベントでは島の特産品を対面販売し、多くの人を集めています。

## 14. 活魚をあげる (小野浦 1988.12)



釣り上げられた魚は、いったん漁協のいけすに集められ、そこから出荷します。まだ漁港に赤い橋があった頃の絵です。

現在も、呉豊島漁協 棧橋のいけすに集められた魚は、種類や重さなどで分けられ、運搬



用のトラックで大切に市場に送られていきます。鮮やかなタイ、瀬戸の名刀タチウオ、アコウ、オコゼなど一本釣りで揚げられた高級魚ばかりです。

## 15. 広島・今治高速艇乗船風景 (小野浦 1989)



安芸灘架橋が完成するまで、豊浜の交通を支えたのは主に船でした。当時は豊島栈橋と立花フェリー基地から、呉市仁方や蒲刈とを結ぶフェリー航路があり、広島（宇品）～今治間の高速船も寄港していました。



現在は第八同栄丸（写真）が平成16（2004）年に就航して豊町久比港と齋島とを結び、島民の生活を支える貴重な交通手段になっています。

## 16. ようこそ豊浜へ (小野浦 1987.9)



安芸灘の橋々が架かる前、島外との交通手段は船に限られ、客船やフェリーが行き交う棧橋は、現在の空港のように華やかで賑わいのある場所でした。

豊島棧橋は港湾整備や埋め立てにより、場所を移動してきました

が、最後は現在の場所に落ち着きました。「ようこそ豊浜へ」のアーチは、2年後1989年22ページの「19.フェリー基地」が描かれた時まで撤去され、改修されたようです。



## 17. 豊島小学校 (小野浦 1990.6)



描かれた豊島小学校は平成4（1992）年の新校舎落成以前のもので、当時150人ほどの児童が通っていました。

町内には他に大浜小学校と斎小学校がありましたが、児童数が減少したことから平成7



（1995）年斎小学校，平成13（2001）年に大浜小学校が閉校。平成26（2014）年3月には、豊島小学校も豊小学校との学校統合により幕をおろしました。坂の上にある学び舎は、今は静かに家並み越しの海を見つめています。

## 18.豊島小学校 (小野浦 1989.4)



この絵が描かれたのは4月、体に合わない大きなランドセルを背負っているのは新生児でしょうか。レンガの壁の下に階段が続いています。小野浦の丘の上の小学校で、大崎下島大浜方面が一望できます。



平成26（2014）年閉校後も石柱が4本並ぶ門、脇にある百葉箱などそのたたずまいは昔のままで、なつかしい学び舎からは、絵にはない豊浜大橋がよく見えます。

## 19.フェリー基地 (小野浦 1989)



安芸灘架橋が架かる前、フェリーは豊浜と本土や島々を結ぶ重要な役割を果たしていました。安芸灘大橋完成後も平成20（2008）年豊島大橋が開通するまでは、上蒲刈島～豊島～大崎下島間にフェリーが就航していました。



今この栈橋からは、齋島航路の第八同栄丸が発着しています。

## 20.中学生島内一周マラソン風景 (内浦 1990.11)

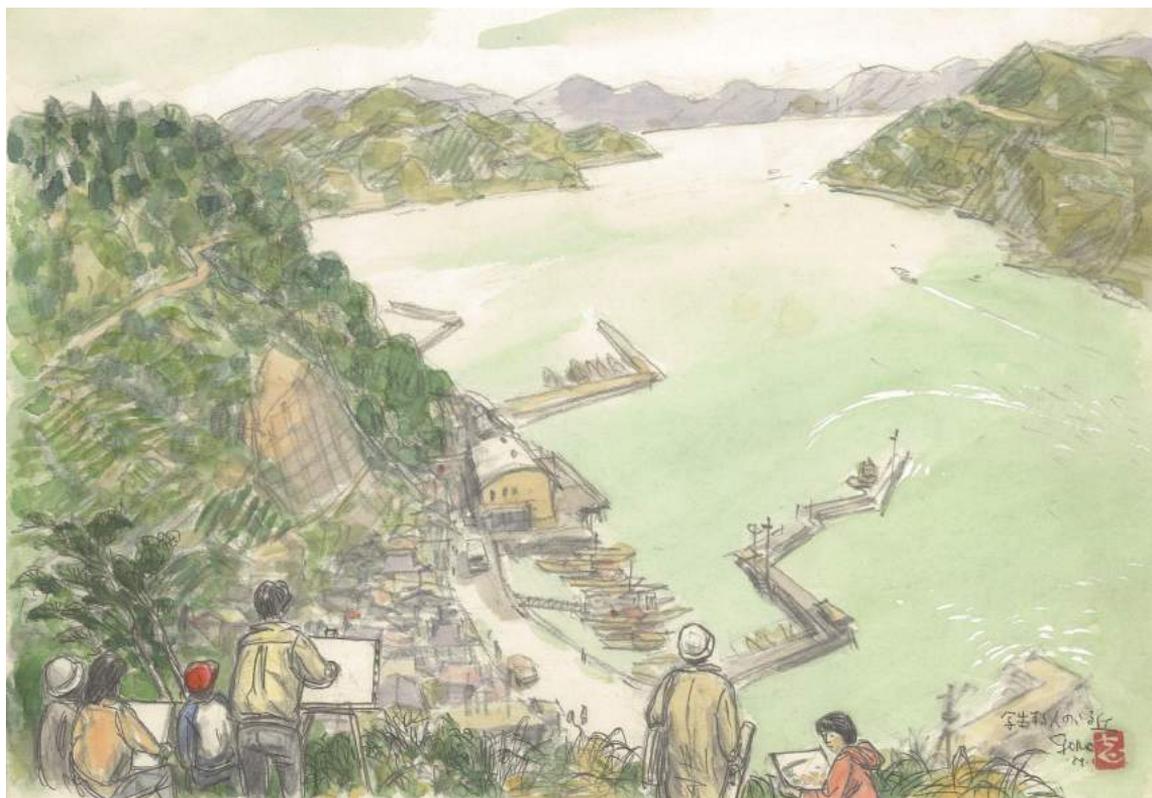


内浦のAコープ豊島店を南に進み、県道沿いにある祠。豊浜では町内のあちらこちらに地蔵さんや祠があり、大切に奉られています。元気よく走る中学生をそれらは静かに見守っています。

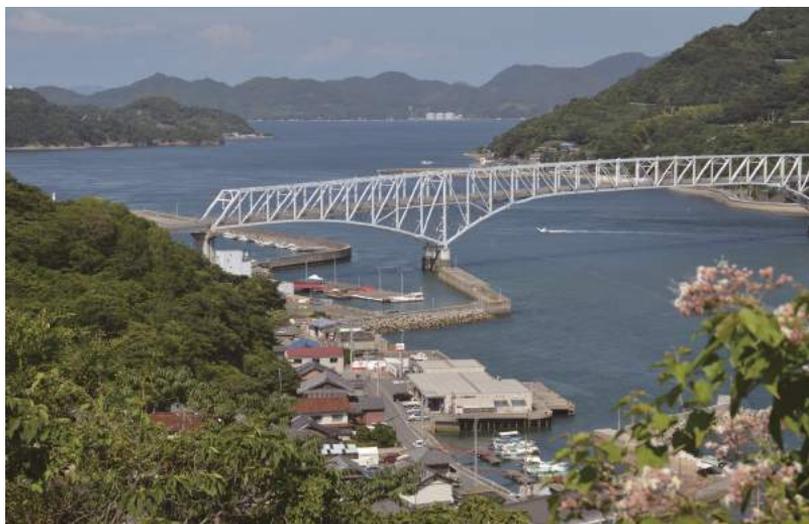


平成10(2005)年に鳥居が建立されイメージが変わりましたが、絵の左奥に建設中だった豊浜大橋の橋脚が描かれていて、場所を特定することができました。

## 21. 写生する人のいる丘 (内浦 1989.1)



内浦を見下ろす小高  
い丘は、雄鷗の滝から  
南方に登って到着でき  
ます。当時町主催の写  
生大会が開催され、絵  
心のある人たちが訪れ  
ました。この絵が描か  
れた時には豊浜大橋の  
建設がはじまってい  
て、大崎下島側でその  
様子が伺えます。



平成4（1992）年豊浜大橋が開通し、丘からの景色は一変しました。

## 22.豊島内浦 (内浦 1988.4)



内浦の集落を見下ろす丘の上からのスケッチ。

現在もおよそ30年前と同じ景色が、目の前に広がっています。写真左下のシュロの木も残り、今回最も変わらない場所の一つになりました。



## 23.雄鷗(ゆうこん)の滝 (内浦 1988.9)



内浦の集落を登り詰め、農道が二手に分かれる辺りに観音堂があり、その奥にある滝。江戸時代芸州藩の記録にも残され、岩肌にはてんしよ篆書体の文字が刻まれています。



雨期には二条の流れがあり、水量が少ない

夏場でも涸れることなく岩肌に白い筋を描いています。現在は岩石崩落の危険性があり、滝に至る遊歩道は通行禁止になっています。

## 24. 豊浜ドック風景 (山崎 1989)



豊島は、一本釣りにかける誇り高い漁師の里。寝泊まりしながら遠洋での漁を続けるための「家船」など船は生活のすべてを支えるものとして大切に扱われ、整備点検修理を行うドックや造船所が数カ所ありました。



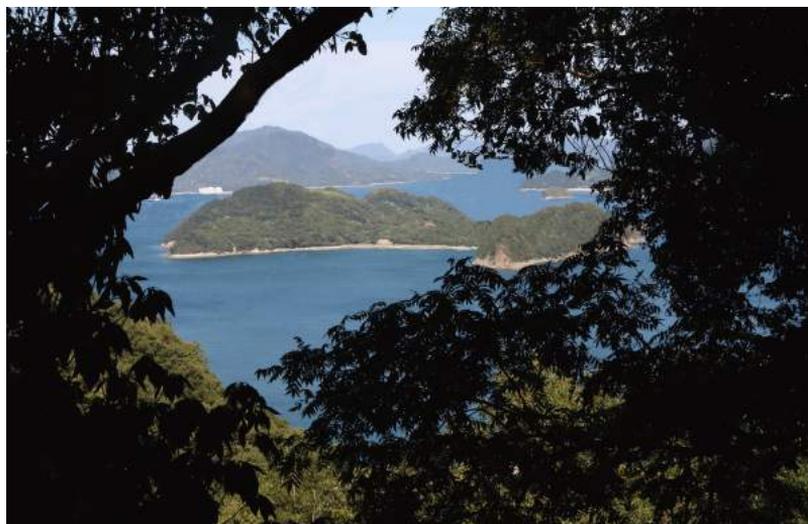
現在も、人船一体となり伝統を守りながらタイやタチウオなどの漁が続けられています。昔と変わらない、ドックで白い船体を休める姿を、今も見ることができます。

## 25. 中峠梅雨 (山崎)



「牛峠」「中峠」  
どちらとも読み取れる  
タイトル表記ですが、  
そのような字名は  
残っていません。

描かれた島が三角  
島とわかり、山崎か  
ら空海展望台方面へ  
向かう途中で一瞬見  
えた風景写真がこの



一枚。地元の方に伺うとそこは「中峠・なかだお」というそうです。ただ、樹木に行く手を阻まれ、四国五郎さんの絵にある地点には、たどりつけませんでした。この絵は、今でも幻のままです。

## 26.長福寺から豊島をのぞむ (大浜 1988.10)



大浜の長福寺は、元真言宗の古寺で江戸時代初期までは住職も居ました。しかし寛政9（1797）年の大火により大部分が焼失し歴代住職の位牌だけが残ったと言われます。

大崎下島側大浜の高台にあり、対岸の豊島がよく見えます。境内には、樹齢千年余りのクスノキが、昔と変わらぬ威容を誇っています。普段は静かな境内も4月29日の花祭りには甘茶が振る舞われ、賑わいを見せます。



## 27.大浜字立花大岐神社 (立花 1988.11)



立花の氏神「大岐神社」はその昔「太郎明神」と呼ばれ、大山祇神社の遙拝所の一つだったと伝えられています。戦国時代、豊臣秀吉の家臣だった今治常高寺の開祖了空はこの地に小さな庵を構えて布教活動を行い、豊浜における浄土真宗発祥の地となりました。



境内にはムクノキなどの巨木がありますが、絵に描かれた頃に比べ、少なくなったように思います。

## 28. 県下第2位の大岐神社の棕の木 (立花 1987.12)

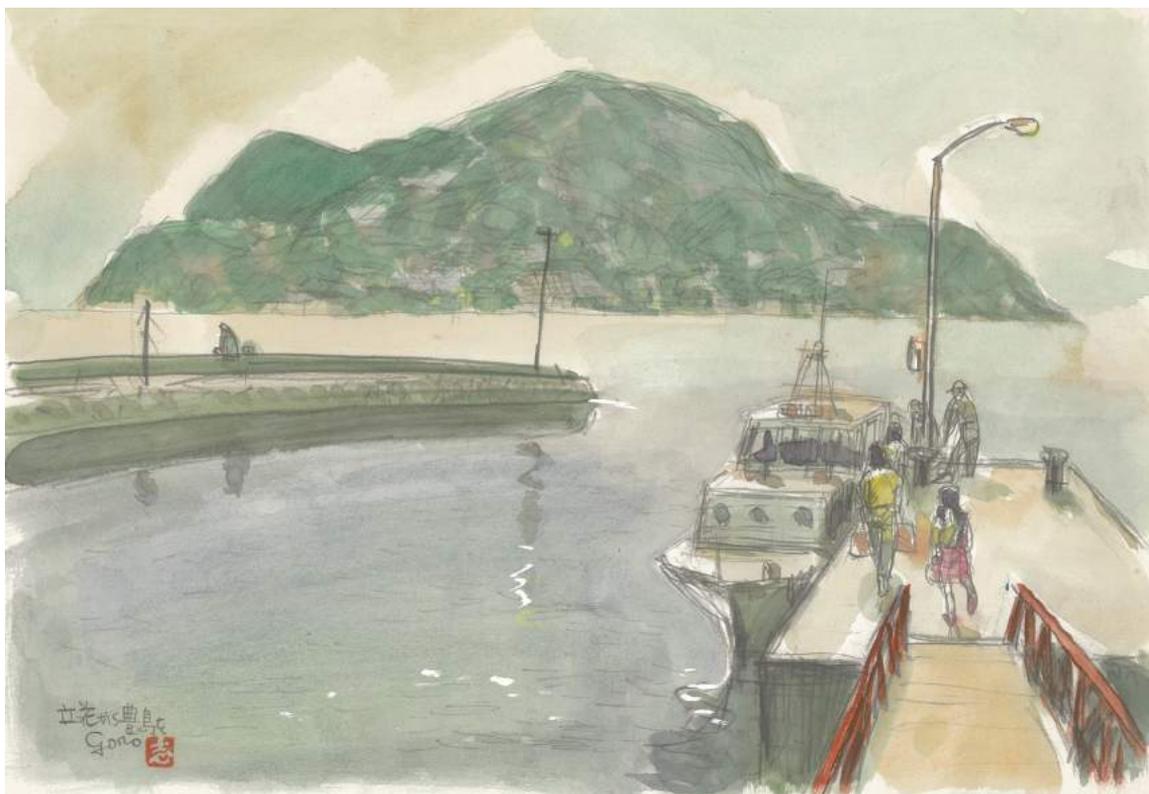


推定樹齢600年胸高直径7m、高さ15m。昭和29(1954)年、広島県の天然記念物に指定された大岐神社のムクの大木は、当時県内第二位と言われていました。

現在「広島大学デジタル自然史博物館」では県内一とありますが、幹周りや高さなどを総合的にみると明確な順位は不明です。それでも、県内有数の巨木であることに間違いはありません。隣には、かつて存在した大黒松の切株が残されています。



## 29.立花から豊島を (立花 1990.9)



海を挟み豊島と大崎下島西部で形成された豊浜町で、大崎下島側の立花にはフェリーと客船の栈橋がありました。安芸灘の島々に橋が架かり、平成16(2004)年町営渡船に続き、平成20(2008)年フェ



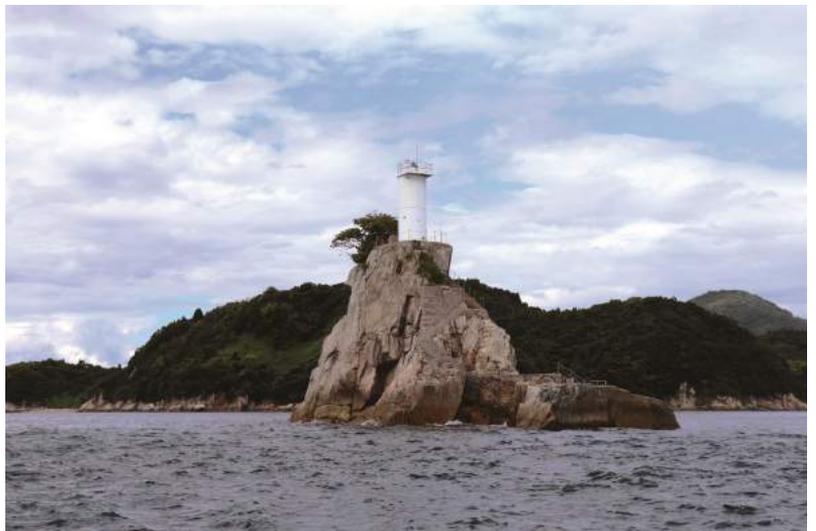
リーの運航が終了しました。現在この旅客栈橋には斎島航路が寄港し、呉市消防局の救急艇が停泊しています。目前の豊島背後には、川尻町の背後にある野呂山のシルエットを見ることができる場所です。

## 30. 鴨瀬 (尾久比島沖 1989)



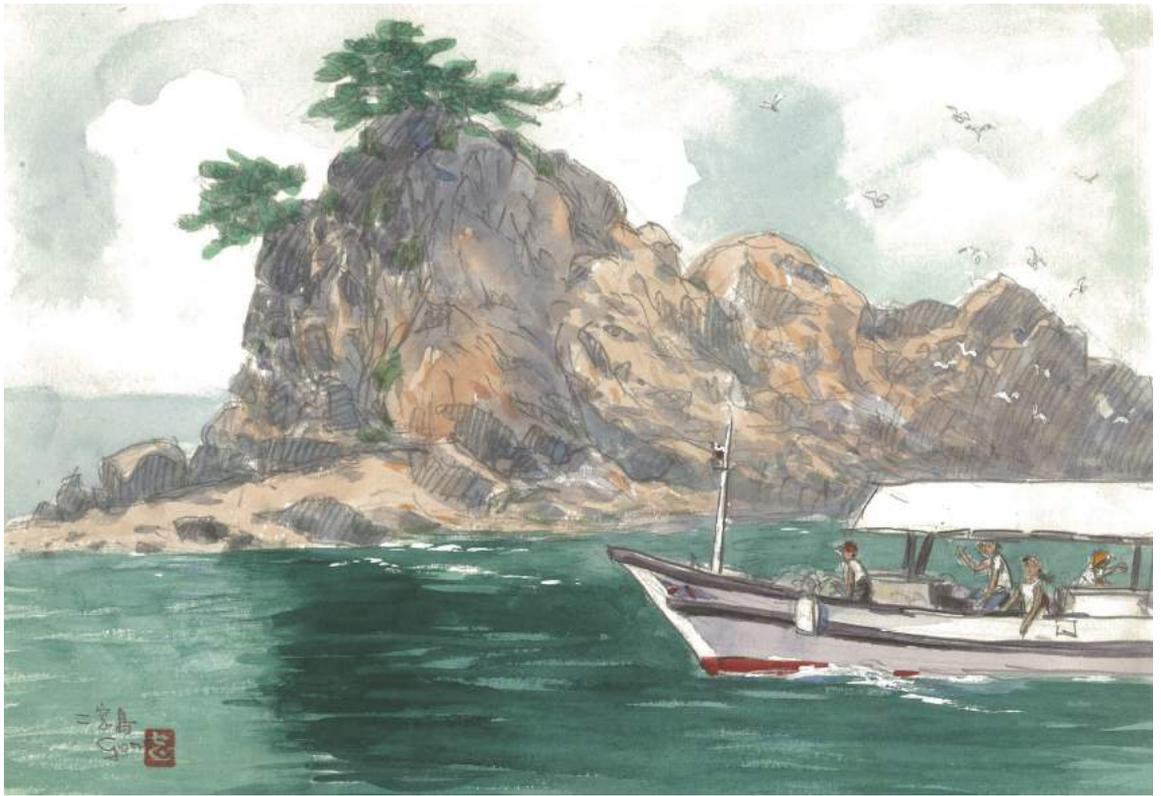
尾久比島の南，国指定天然記念物「アビ渡来群游海面」のただ中にある岩礁に建てられた灯台は，昭和17（1942）年に点灯されました。

上蒲刈島と豊島間には，現在長さ約900mの豊島大橋が架かり



ましたが，橋を挟む海峡の南北には小島や岩礁が数多く見られ，潮流も早く瀬戸内海でも有数の漁場となっています。

## 31. 二窓島 (尾久比島沖)



上蒲刈島と豊島の  
間には、尾久比、二  
窓、大子の無人島と岩  
礁が点在しています。  
二窓島は2箇所に分か  
れ、絵は西側の島。

豊島の漁師は伝統の  
アビ漁に欠かせない海  
鳥アビを神の使いと  
し、海域内の7つの島

や岩礁に小野浦の胡神社(恵比須神社)の分社を祭りました。分散での祭りが難しくなり、平成28(2016)年からは7つの神社を胡神社に集め、合同祭が実施されています。



## 32. 齋小学校海水浴風景 (齋島 1992.7.3)



齋小学校は明治13  
(1880)年私塾が  
開かれたことに始ま  
り、幾多の変遷を経て  
平成7(1995)年  
の閉校まで115年の  
歴史を刻みました。跡  
地には宿泊研修施設  
「あびの里いつき」が  
建設されましたが、平

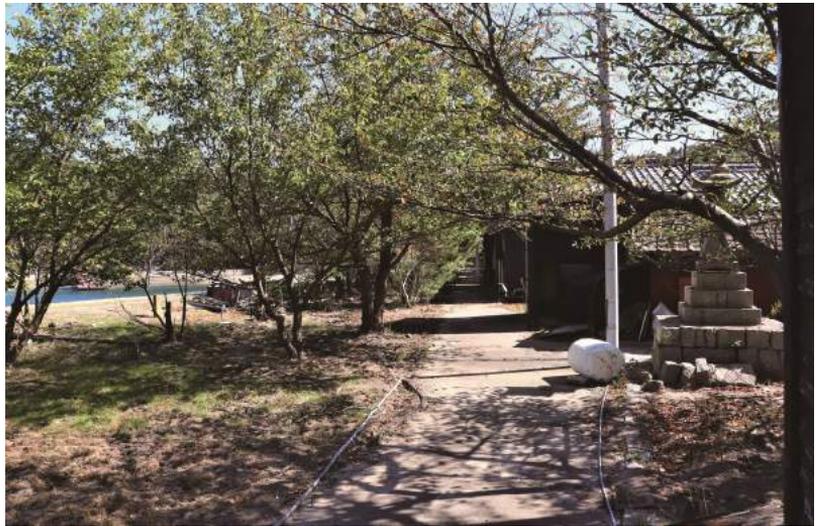


成21(2009)年に休館。最盛期の昭和20年台後半には60人以上が通  
学していました。前庭ともいえる砂浜は、子どもたちの声を懐かしむように、  
今は穏やかなたたずまいを見せています。

### 33.いつき島春色 (齋島 1992.4)

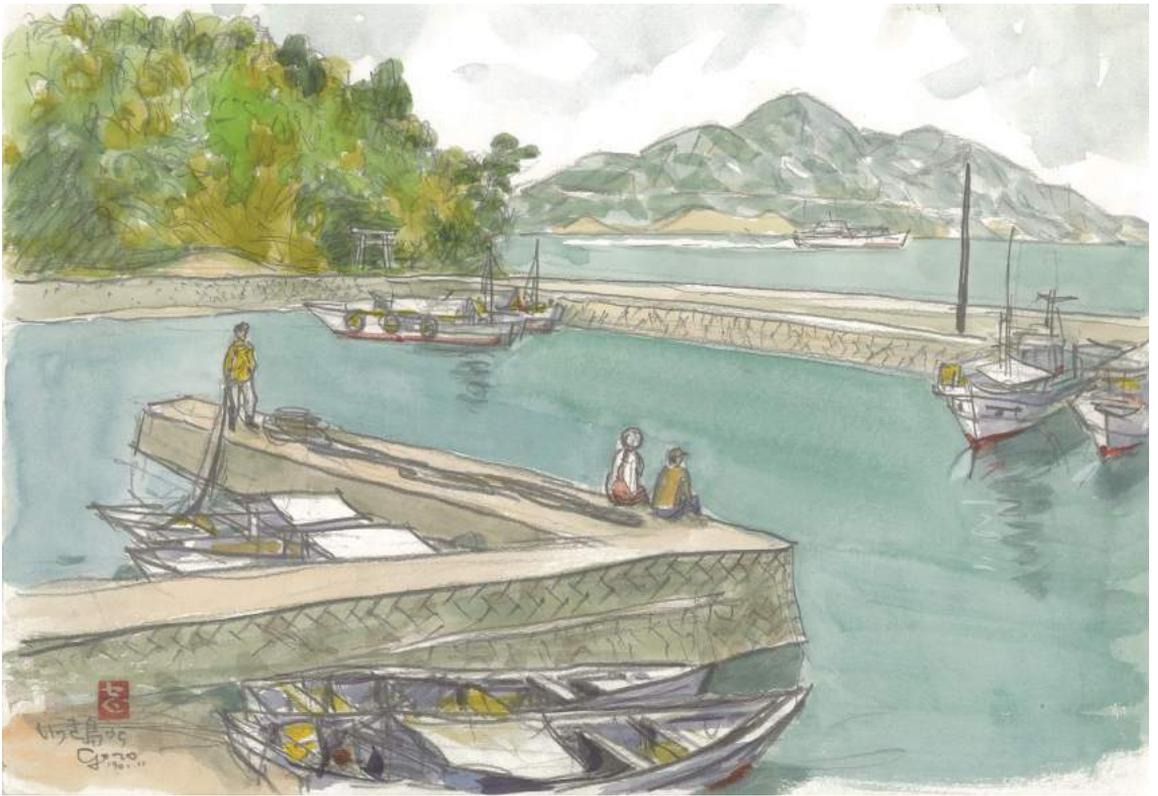


古より神が宿る島として信仰を集め、周囲はアビ漁の好漁場だった齋島。漁業や海運業などに従事する人で、戦後の一時期には人口400人近くを数えました。現在は島北部入り江付近の集落で、10数人が暮らしています。



自動車が走らないメイン道路沿いで、賑わいを見せた家並みも落ち着きを戻し、砂浜は埋め立てられたことが見て取れます。石灯籠が往時のままで建ち、賑わいを伝えています。

## 34.いつき島から (齋島 1990.11)

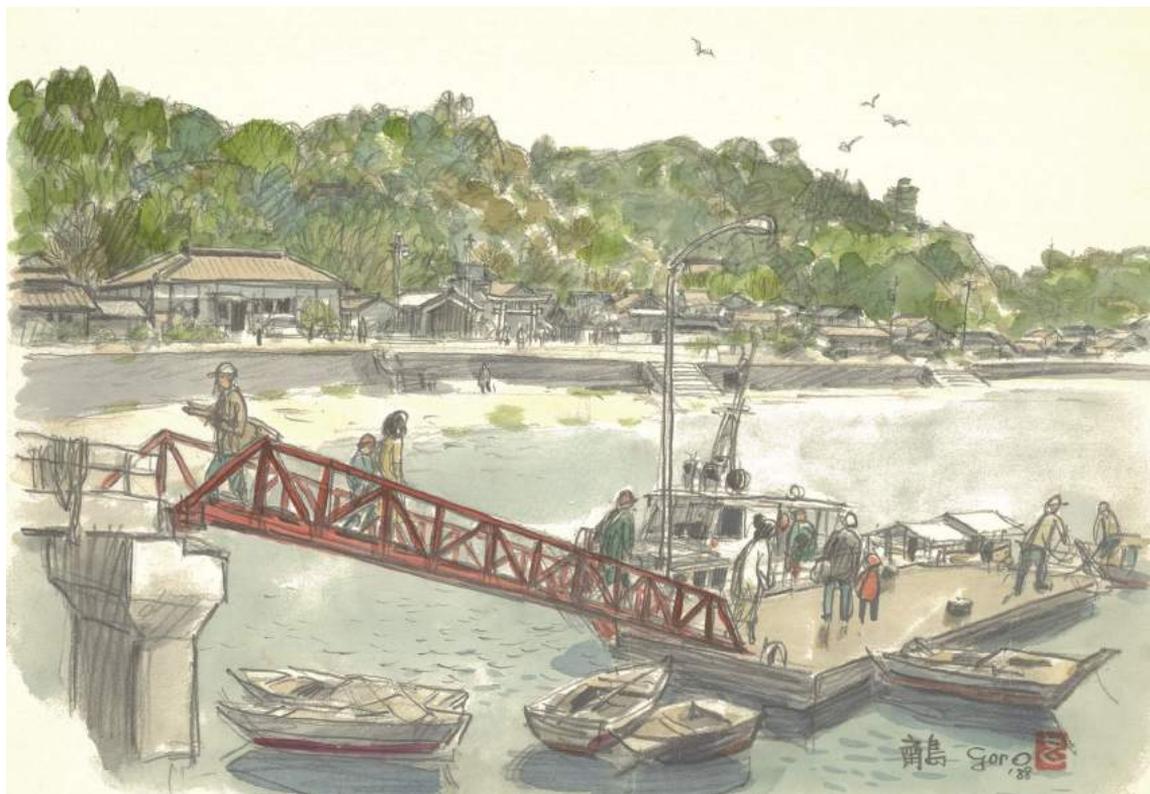


島の港に立つと、鳥居が2つあることに気づきます。中央の大きな社は「蛭児神社」西方の小さな社は「恵比須神社」で、ともに島民の篤い信仰に支えられています。恵比須神社を目前にした場所にある、古い堤防。その後の港湾整備により、堤防が増設されたりかさ上げが行われたりしました。



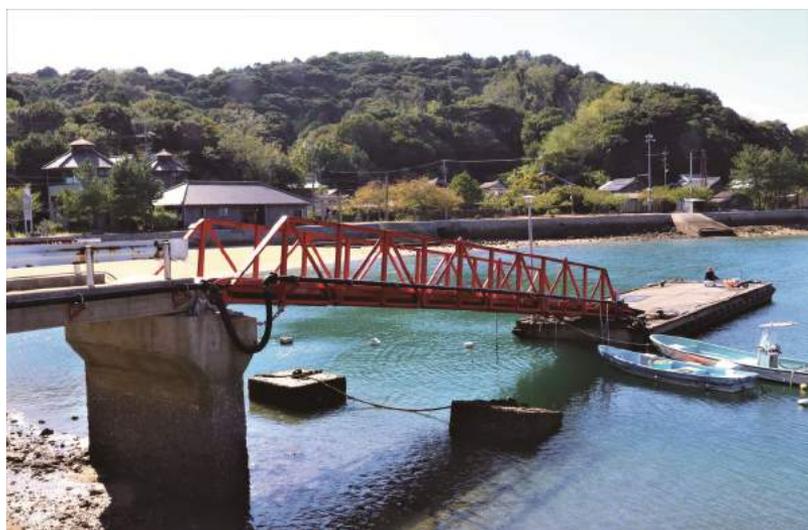
ほとんどの絵がそうですが、四国さんの「画家の目」から見えるものは、現実の風景が少しデフォルメされて描かれています。

## 35. 齋島 (齋島 1988.3)



齋島の生命線は、この栈橋発着の旅客連絡船。自動車が乗せられない船なので、島には車の姿が無く、静かな環境が保たれています。

現在は平成16（2004）年就航の「第八同栄丸」が齋島～齋島間を17分で結び、1日5往復して島の生活を支えています。



## 36. 齋島風景 (齋島1989.12)



古文書によれば、中世に荒れていた古社を慶長12（1607）年再建。江戸時代初期、多くの人が島に住み始めた頃、大量の蛇に悩まされていました。大長村の神主に相談して「蛭児」の神を祀ると、蛇の横行は治まったと伝えられています。



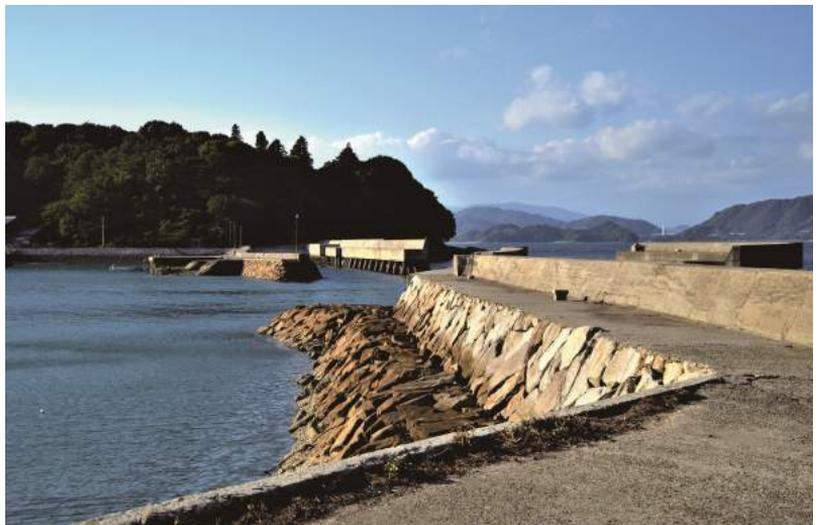
以来信仰に支えられた神社は、小さな集落としては異例の社格を持つようになりました。

## 37. 齋島風景 (齋島 1989.6)



湾の対岸に見えるのは、恵比須神社の鳥居。島民の生活を守るように、港の入口には護岸が築かれ、その内側は穏やかな状態が保たれました。

やがて石積みの堤防の外側に大規模な護岸が2重に築かれ、更に安全が守られるようになりました。それでも、「冬場に荒れる海は、瀬戸内海とは思えない」と島の人が教えてくれました。厳しい自然と向き合いながら、島の生活は連綿と受け継がれています。



# 撮影場所位置図





豊浜町まちづくり協議会

令和2年12月